

学校法人 東京滋慶学園 日本医歯薬専門学校 学校関係者評価委員会 評価結果および改善方法

【2020年6月7日実施 学校関係者評価委員会をうけて】

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
1 教育理念・目的・育人人材像 (篠田)	1-1-1 理念・目的・育人人材像は定められているか	3	滋慶学園グループ 日本医歯薬専門学校は、理念・目的・育人人材像を以下のように定めている。「職業人教育を通じて社会に貢献する」ことをミッション(使命)としている。同時に、【建学の理念】の実践を通じて、【4つの信頼】を得ることを目指している。さらに【3つのポリシー】を明確にし入学・在学・卒業まで一貫性ある教育方針を策定・実施している。また本校では、今後の社会環境の変化・動向を鑑み以下の組織目的とした。広報を主眼とした新たなコンセプトの設定「あなたらしく 女性の『学びたい・働きたい』を叶える学校」を目指し運営をしている。	・建学の理念(実学教育、人間教育、国際教育) ・4つの信頼(学生からの信頼、高等学校からの信頼、業界からの信頼、地域からの信頼) ・3つのポリシー(アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー)	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・理念、目的に基づいて実践できていると考える ・医療、歯科医療の分野を目指す女性の将来を通じた継続支援、学生、教職員をはじめ学ぶこと、働くことへの大きな枠組みでの本校の目的・運営方針が着実に進んでいることを実感した ・面会見の良い学校であるという印象を受けた
	1-1-2 育人人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	3	常に業界等の人材ニーズを把握し、学校・学科商品を定めている。	日本医歯薬専門学校が養成している人材は医療専門職であり、学科商品の特性から女性が中心である。女性のさらなる活躍の場が拡大することを見据え、学校運営・学生(卒業生)サポートをしている。		
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	3	ミッションや理念は教育指導要領、学生便覧に記載されており、研修等で教職員や講師に至るまで周知し、特色ある教育活動が図られている。また、学外に向けては、ホームページや学校パンフレット、オープンキャンパスなどを通じて理解して頂くことに努めている。	文部科学省(中央教育審議会答申)を中心とした、職業観、勤労観を身につけ、「自立や仕事に必要な力の基盤を育てる」取り組みに合わせ、入学前の時期から在学中、さらに卒業後に至るまでの期間をキャリア教育の場と捉え、一貫した内容でのフロー教育を組み立てていく。		
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	3	今後も社会の変化に対応していくためにも、キャリア教育の視点を組み込んだプログラムの整備にも着手し、入学前～在学中～卒業後の期間を通じてのフロー教育を実施している。			
2 学校運営(篠田)	2-2 理念に沿った運営方針を定めているか	3	明文化、文章化され定められた運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に会議や研修を通じて周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間を通じて力を入れている。	学校で定めた運営方針・実行方針に基づき、具体的なアクションプランである実行計画を策定するが、その策定に関しては実際の現場担当者が運営方針・実行方針と統合した上で作成している。	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・4つの信頼の獲得に向けて具体的に施策を実施していること、各部署が連携を取りながら取り組みをしていることが伝わった ・事業報告、広報、教育、就職、数字報告等全てにおいて自己点検・自己評価報告と相違なかった ・教職員の方々が多岐にわたり頑張っているのがわかったが、オーバーワークになりがちなので働き方改革、教職員の健康等を意識され、益々、丁寧に学校運営することを期待する ・記録と統計をもとに現状の確かな分析導きつつ、課題解決に取り組みながら将来を見据えた視座を併せ持っている
	2-3 理念等を達成するための事業計画を定めているか	3	運営方針同様、明文化、文章化され定められた事業計画を基に、学校運営に関わる全ての人に会議や研修を通じて周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間を通じて力を入れている。	事業計画達成に向けてのチェックはそれぞれの現場の責任者から構成される運営会議により、月1回実施している。		
	2-4 設置法人は学校運営のための組織を整備し、組織運営を適切に行っているか	3	意思決定システムは事業計画に会議として明文化し、確立されている。また、会議は教職員の研修の場でもありと考えている。問題を早期に発見した後の数字分析、仮説、立案、実行、検証の思考サイクルは、様々な業務の場面に役に立てられている。	会議は 1. 法人理事会・評議員会 2. 学校戦略会議 3. 法人学校運営会議 4. 運営会議(学校の目標達成に向け、発生する問題解決会議) 5. 学校全体会議(決定事項の周知) 6. 学校学科会議・部署会議(部署の問題解決会議)7. グループ各委員会会議8. 様々なプロジェクトの会議がある。		
	2-5 人事・給与に関する制度を整備しているか	3	採用計画と人材育成のための研修は、システムとして確立され、有効に機能している。採用にあたっては、滋慶EAST本部人事採用センターが中心となり、採用試験を実施している。採用は採用基準のもと、厳正に実施している。また、その後の教職員の育成には、最も力を入れている。そして、目標管理制度に基づき、成果に応じた人事や賃金決定が行われている。	数値目標を達成する過程の業務や、数字だけでは評価できない業務も過程を評価できるよう「プロセス評価」を導入している。目標は常に、健全な学校運営・学科運営を実現できているかの視点で立て、評価も公平に行い、学校・学科の成長と教職員の成長に結びつくようにしている。半期・年度末に目標に対して到達度等をフィードバックし振り返りを実施している。		
	2-6 意思決定システムを整備しているか	3	意思決定に関しては、決定事項の優先順位付けと意思決定を行う機関を明確にしている。また、毎年短期的、中長期的視点に立っての事業計画の策定を行っていることで、目標志向性の高い組織運営が行われている。	意思決定機能については、それぞれの「会議」がその役割を果たすが、決定事項に関しては「議事録」を残し、学校全体で共有できる仕組みとなっている。また全体会にて全教職員へ決定事項の周知徹底を図っている。		
2-7 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	3	業務のマニュアル化とシステム化が推進されたことと、グループ内のコンピュータ関連会社の協力により、セクション毎の情報システム化・効率化が推進されている。	学生の教育・就職・学費入金等、学生に関わる情報処理についてはすべて一元化された運営を行っており、学生情報にプレがないようにシステム構築をしている。人事・予算についても「勤怠管理システム」「予算管理システム」を導入し効率化に努めている。			

3 教育活動 (富田)	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	3	各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられている。 各学科の教育目標、育成人材像は、常に業界のニーズを反映させるため、毎年上半期終了時点から業界・学科・競合校の各調査に着手し、それらから業界ニーズを読み取り、確実に伝えられる教育目標、育成人材像を設定している。	人材ニーズの変化や業界そのものの変化に伴う学科の養成目的/教育目標の見直しやカリキュラムの再構築に専断的に関わる授業改善のためのプロジェクトが組織されており、定期的に会議の中で学科の運営状況をチェックする機能を持っている。職業実践専門課程の認定を受ける際に業界との連携をさらに強化している。	2.8	<p>・きめ細やかな対応をいただいていると感じた。保護者としても何かしらのサポートを家庭でしていかなければならないと感じた</p> <p>・勤労観の育成、キャリアプランの作成、具体的な本校・受講料の目的・選択意識を導入時期に教育致すこと及び自ら考える力を継続的に養うことが重要と考える</p> <p>・学校の基本体制と、管理者から全教職員における一体的な取り組みによって成果がもたらされていると推量する</p> <p>・非常勤講師との情報の共有、協力体制の構築は教育の質の担保の上では重要であるので方法なども検討し、その機会を作ってほしい</p>
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	3	各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められている。			
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	3	カリキュラムの編成に関しては、養成目的・教育目標を定め、その上で学期ごとの到達目標へと落とし込んでいる。さらに学期目標を達成するために必要な科目を設定することにより適正な編成がなされている。			
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	3	卒業生に関しては同窓会、卒業生勉強会、関連業界に関しては担当部署であるキャリアセンターが中心になり、意見聴取を行っている。 また教育課程編成委員会により、各学科に関連する業界関係者(杉並区歯科医師会会長・東京都歯科衛生士会顧問・杉並区眼科医会会長等)からの評価や意見聴取を行っている。			
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか	3	現在実施している様々なプログラムを、キャリア教育の視点を持って体系的に組み直すことで、より効果的なキャリア教育を提供することができている。	学園グループのキャリア教育に対する考え方をまとめた「キャリア教育ロードマップ」を作成し、それに基きプログラムを構築している。 また学校の取組みとして入学前セミナー、導入教育、実習前後教育、就職講座をフローで実施し、専門職就職へのモチベーションを強化し、勤労観の養成に努めている。		
	3-9-4 授業評価を実施しているか	3	授業アンケートとオープン授業を通して、授業評価を実施しているが、受ける学生の視点と、行う講師の視点の2つを重視している。授業アンケートとオープン授業によって明らかになった授業改善点については、講師面談を通じて、担当講師へのフィードバックを行っている。	アンケート内容は下記の4区分16問に自由意見を加えた形式としている。 区分1)授業内容 5問 区分2)授業手法と教員の行動 5問 区分3)教育効果 3問 区分4)学生の行動 3問		
	3-10 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	3	成績評価と単位認定の基準は、学則および学則施行細則によって明文化されており、教育指導要領及び学生便覧にしっかりと明記し、教職員や講師、学生に周知徹底している。また、それらに基づき学生指導・支援にあたっている。	各科目について5段階評価を行う。 2017・2018年度生はA・B・Cを合格とし、D・Eを不合格とする。 2019年度生はA・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 *科目の評価が不合格(59点以下)の対象者には再試験を行い、その評価は最高CまたはDとする。		
	3-11 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか 資格取得の指導体制はあるか	3	取得目標資格について、教育指導要領及び学生便覧に明記し周知している。各学科における資格検定は100%合格を目標に早期対策を実施している。	滋慶学園グループのグループ力を活かし、学校、学科を超えて受験サポートを行う組織として国家試験対策センターを設置している。このセンターは合格率の向上を目的とし、様々な活動(e-ラーニングの運用、過去問題分析、オリジナルテキストの作成、模擬試験の作成・実施など)を行っている。 また個別フォローを行い、歯科衛生士学科Ⅰ部で53名(新卒)受験50名合格(94.3%)、歯科衛生士Ⅱ部で67名(新卒)受験全員合格(100%)、視能訓練士学科Ⅰ部で23名(新卒)受験・21名合格(91.3%)、視能訓練士学科Ⅱ部で33名(新卒)受験・31名合格(93.9%)実績となった。今後も100%合格のための指導体制を確立していく。		
	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	3	学科の教育目標を達成するために、その分野のスペシャリストであると同時に法で定められた要件を満たしていることを講師採用の基準に据えている。採用講師に対しては、初任者講師研修会を通して、授業運営上の留意点、成功事例、学校の理念、養成したい人物像等を共有し、コンセンサスを図っている。	講師との共有資料として、下記が挙げられる。 ①講師契約書 ②学年暦 ③時間割 ④教育指導要領 ⑤科目シラバス ⑥国家試験出題基準		
	3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	3	全教職員対象の研修・会議において授業技術の向上に繋がる内容を取り入れている。かつ、オープン授業、授業アンケートを実施している。 また学園グループの研修制度も充実している。	オープン授業および授業アンケートの目的は共通して教育力の向上であり、各学科において評価し良い点、改善点をフィードバックする。授業アンケートは16問を数値化し項目の課題と自由記述を各講師へフィードバックしている。 学園グループの研修は教職員カウンセリング研修(1次・2次)および歯科衛生士教員研修が実施されている。		
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	2	事業計画の中に組織図、職務分掌などを明記し、毎年、それぞれの部署で組織役割表を作成して業務分担や責任体制を明確にしている。 また、授業アンケートの実施およびフィードバックに取り組んでいる。	コロナウィルスの影響により講師会議が中止となったため、2020年度に実施計画をたて非常勤講師との連携、協力体制を構築する。			

4 教育成果（豊島）	4-13 就職率の向上が図られているか	2	開校以来、就職希望者の内定率は100%を維持できている。また取得した資格や学んだ知識、習得した技術を活かせる現場への就職(専門職就職)も、95%以上の高い水準を維持することができている。 一方で課題は、家庭やパートナーの転勤や転居に伴って、就職場所や時期を決定できずに就職しない学生の増加が傾向としてみられることである。キャリアセンターと教務スタッフが、資格を活かして働くことの社会的使命や自身のライフプランでの重要性を、連携を図りながら継続して学生に伝えていくことが、重要な指導方針である。	就職率の向上を図るためのキャリアセンターの活動は、 ①入学希望者には実習、就職活動、そして卒業後の勤務に対する具体的なイメージを持ってもらう。 ②在校生に対して実習・就職支援(就職斡旋や求人開拓活動、実習先・アルバイト先訪問)を行う。 ③同窓生(卒業生)に対しては、勤務先訪問、スキルアップ講座の提供や再就職支援を実施する。 ④キャリアコンサルタントを配置して、勤労観の育成、キャリアプランの作成、具体的な就職試験対策を個別に指導している。	3.0	・医療人として単科学習成果ではなく、各学習の繋がり・目的がどのような部門とリンクしているか、相対的な視野が必要と考える ・昨今のコロナによる医療現場の収入減少に伴い、人事採用にも影響の可能性があるので就職支援については今後、業界の動向、学生への個別指導どちらも強化したほうが良いと考える
	4-14 資格・免許の取得率の向上が図られているか	3	各学科で資格取得の目標を達成するために、対策講座を設け実施している。	2019年度歯科衛生士国家試験 【全国平均合格率:94.3% 全国平均新卒合格率:96.2%】 ・歯科衛生士学科Ⅰ部新卒合格率:94.3% ・歯科衛生士学科Ⅱ部新卒合格率:100% 2019年度視能訓練士国家試験 【全国平均:96.1% 全国平均新卒合格率:97.7%】 ・視能訓練士学科Ⅰ部新卒合格率:91.3% ・視能訓練士学科Ⅱ部新卒合格率:93.9% ・歯科衛生士学科:指導体制の改革3年目。「個人の力量で対応」「直前対策で引き上げる」といった旧来のやりかたを改め、教員全員で年度当初から対策を行い一定の成果を得た。 ・視能訓練士学科:教員全員で習熟度別、個別の指導が実施できた。 ・両学科ともに不合格者の支援を次年度行っていく。		
	4-15 卒業生の社会的評価を把握しているか	3	卒業生の活躍が業界で評価されており、求人票や実習先の多さにも現れている。 学校全体で求人倍率は16.2倍(2,907人分/179人)となっている。 学校として卒業生の業界での活躍を卒業生訪問を通じて確実に把握している。	同窓会活動の自律化を目指し、卒業生と学校、または卒業生間の関係構築が引き続き課題である。 ①卒業教育として、卒業生対象の勉強会を4年前より継続的に開催している。 ②卒業支援として、一昨年より開始した卒業生の就職先訪問を継続実施している。 ③卒業就業支援として、キャリアコンサルタントによる就業相談と求人斡旋を行っている。		
5 学生支援（豊島）	5-16 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	3	進路支援体制は整備できている。就職等の進路支援は、年間目標ならびに年間行動計画を立てて実施している。全体指導に加えて、個別指導を行っている。全体での求人倍率は16.2倍で売り手市場となっている。キャリアセンターでは、業界の情報収集を徹底し、求人時期と求職時期(実習等のカリキュラムと連動する)を、マッチングさせる対応を強化している。	採用担当者を招いての学内説明会を実施。 集団をみる視点で就職講座のフロー化 + 一人ひとりみる視点で担任とキャリアセンタースタッフのミーティングの実施。 国家資格キャリアコンサルタントの配置(常勤2名、非常勤週1回1名)	2.8	・検定受験のための学習前進した医療人育成の教育として常に意識し、非常勤講師間及び学校職員との最新の情報をもとに医療人育成に取り組むことを願う ・中途退学者については、細部にわたり(学力不足、経済的理由等々)分析、追跡されていることは、貴重なデータの積み重ねで今後の対策に大いに生かされると思う ・退学率は今後の検討課題であり、教育内容、生活サポートなど多面的な検証を行い、改善する必要があると考える ・卒業後のケアも細心に行われていて、保護者にも学生にも安心できる
	5-17 退学率の低減が図られているか	2	学園グループ全体の退学理由傾向を分析し、学生の「学習意欲」と「精神面」の双方から支援の方向付けを検討する材料となる「サポートアンケート」を実施している。退学率の低減のため授業欠席者・長期欠席者・休学者の個別対応や長期休み前(ゴールデンウィーク・夏休み等)の対策、年2回の個人面談実施などに取り組んでいる。	【2019年度実績;中途退学率5.6%】 ※前年度実績:6.1% 学生の進路変更に対応するため、学園グループ横断的に「進路変更委員会」を設置し、中途退学から新たな進路へと向かうための仕組みを構築している。 【2019年度 進路変更実績3名】 ・視能訓練士学科Ⅰ部1名が医療事務IT学科へ転科 ・歯科衛生士学科Ⅰ部1名が医療事務IT学科へ転科 ・歯科衛生士学科Ⅰ部1名が歯科衛生士学科Ⅱ部へ転科		
	5-18 学生相談に関する体制を整備しているか 留學生に対する相談体制を整備しているか	3	学校内に「学生相談室」を設置していることで、①精神面②学費③健康面などの相談をいつでも受け入れる体制が整備され、有効に機能している。 留學生に対する相談体制を整備している。学内では事務手続きを中心とした担当、および就職、学習支援の担当を設置し、滋慶学園グループ内組織として留學生センターがあり、生活面等はセンターに所属しているスタッフ(外国人)が対応している。	学生相談室では専門のカウンセラーが対応にあっている。教職員全員に研修を実施。特に、カウンセリング研修では学園内組織(滋慶教育科学研究所)が主催する「JESIC認定教員カウンセラー資格」を全員に受講させ試験を実施することでカウンセリング技術の均一化を図っている。		
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	3	経済的支援体制が整備されている。入学前から入試事務局、学費担当者が一人ひとりの相談を受け、一人ひとりに合った経済的支援を一緒に考えている。保護者の相談も合わせて行っており、在学中も定期的な学費相談を実施している。経済的負担により進学を断念することのないよう、支援ができている。	各種学費サポート制度を取り入れている。 【独自の学費サポート制度】 ・ワーク&スタディ 5万円入学プラン・10万円入学プラン 【公的支援制度】 ・日本学生支援機構奨学金予約採用サポートシステム ・専門実践教育訓練給付金制度		
	5-19-2 学生の健康管理を担う体制を整備しているか	3	滋慶学園グループ内の医療機関である「慶生会クリニック」が、学生の身体と精神面の健康管理をしており、学生の健康管理を担う組織体制は確立されている。安心して受診できる体制が、かなり高いレベルで機能している。また年1回の健康診断や2次検診、インフルエンザ予防接種、B型肝炎ワクチン接種等を実施し、細かくフォローしている。	精神面の健康管理については、「滋慶トータルサポートセンター」を中心に、本校に「学生相談室」を設置し、学生生活全般における不安や悩みの相談に対応している。		
	5-19-3 課外活動に対する支援体制を整備しているか	3	課外活動の支援体制を地域振興ボランティアへの参加を中心に整備している。地域と共に発展していく学校として、地元の行事にも積極的に参加をしている。教職員とともに学生ボランティアも参加し案内・清掃活動他を実施している。	各種地域イベントに参加実績がある(10-36-1、10-37参照)。		
	5-19-4 学生寮の設置など生活環境への支援体制を整備しているか	3	提携不動産会社などと連携を図り、生活環境の改善に努めて支援体制を整備している。また、カウンセラーを学内、学外に配置し、悩みがある場合に速やかに相談ができる環境を整えている。一人暮らしをする学生支援のために「一人暮らしコンシェルジュ」を配置し、一人暮らしを初めてする学生の相談役となっている。また新入生を対象に「一人暮らしセミナー」を4月に開催している。内容は、防犯教育、ネット犯罪等で被害者・加害者にならないための啓蒙活動を実施している。	GW明けのシンドローム対策(5月病対策)として、一人暮らしコンシェルジュによる面談を実施している。		
	5-20 保護者との連携体制を構築しているか	3	保護者との連携体制を構築している。出席状況その他で問題が見られた場合には、保護者と連絡を取り、状況の共有を図っている。必要に応じ、保護者と学生を交えた三者面談も行っている。また、学期・クォーター毎に成績の発送を行っている。これを通じて定期的に学習進捗の確認を行ってもらえるような体制を整えている。	入学前、入学式当日において保護者会を実施し、学事報告を行っている。 また、歯科衛生士学科においては、2年次の登院式保護者会、3年次は国家試験保護者会を実施し、報告を行っている。		
	5-21 卒業生への支援体制を整備しているか 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	3	卒業生への支援体制は整備されている。卒業生のキャリア開発は母校の役割、責任として捉えている。業界から恒常的な信頼を得るためにも、卒業生の活躍は不可欠である。そのための一助となるよう、同窓会活動では、交流によるネットワーク拡大を図り、同窓会を開催した。 卒業後の再教育プログラムを業界と連携して実施している。卒業生勉強会や卒業生講師制度を整えている。 社会人のニーズである学費支援を中心に、教育環境を整備している。専門実践教育訓練給付金講座の認定、働きながら学べる「ワーク&スタディシステム」の構築を行ってきた。	卒業生が生涯働きながら学び続けることを実現するために下記を実施している。 ・視能訓練士学科Ⅱ部では大学等で履修した単位の一部を、入学要件の単位数に換算している。 ・3学科で専門実践教育訓練給付金の指定講座となっており、学費負担の軽減を図っている(歯科衛生士学科Ⅰ部Ⅱ部、視能訓練士学科Ⅱ部(2019年度より)) ・再就職支援の復職セミナー ・キャリアセンターによる再雇用求人紹介		

6 教育環境 (保科)	6-22 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	3	施設・設備・教育用具等を必要性に対応して整備できている。実習授業に力を入れている本校にとって、学内実習室は「現場を再現する」という視点で整備を行っている。この実習室で授業を行ってから現場実習に臨むので、皆スムーズに実習をスタートさせることができている。 図書室や実習室などの学習支援施設をはじめ、手洗いなどの施設も十分に整っている。実習室の機器等に関しては点検・整備などの対応も適切に行っており、事業計画によって改築・改修・更新計画をしっかりと立てている。 学習環境の整備として4階学生ホールを設置した。学生が休み時間、放課後等自由に利用できることでリフレッシュや相互支援の関係性が今までより構築できている。 通学中や自宅など自分の好きな時間に学習できるe-ラーニングシステムを導入している。	5階実習室では、歯科治療ユニットが13台配置されている。よって実習授業では、学生3人で1台のユニットを使用している。これにより、歯科衛生士、アシスタント、患者のそれぞれを体験する授業においては、常にいずれかの役を体験ができるようになっている。結果として高い教育効果を得ることとなっている。 6階ファントム実習室では、歯科予防処置や診療補助の授業をより実践的に学ぶことができる環境を整えている。 また、2017年度より開講した視能訓練士学科の地下実習室では眼科外来で使用されるほとんどの機器を揃えており、より実践的な教育を行うことで高い学習効果が得られている。	3.0	・今後懸念されるであろう実習等においてもこれまでの経験に加えてさらなる工夫で乗り越えてくれると期待している
	6-23 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3	学外実習(歯科衛生士学科:140施設・視能訓練士学科:50施設)・インターンシップ・海外研修の実施は、学園の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」を高いレベルで具現化しており、実施体制を整備している。各学科の養成目的・教育目標に照らしてその教育効果は極めて高いと考えており、その体制もできあがっている。	2019年度 海外研修実績 ・歯科衛生士学科:アメリカ(ハワイ)参加者:14名 ・視能訓練士学科:デンマーク(オーデンセ)参加者:2名		
	6-24 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	3	防災組織を整備しかつ、適切に運用できている。毎年4月、教職員、学生への防災訓練を実施、地震や火災の際の避難経路を常に確認するなど、体制整備とチェックを重視している。現状、災害時の最低限の準備と教職員、学生への動機付けは図られている。 学内の安全管理体制を整備し、適切に運用している。救急時における知識の習得と意識付けは、AEDや心肺蘇生法の講習会を通じて、十分に行われている。入り口を無人にしないようシフトを組んで受付に常駐、および午後から夜間にかけて専属の担当を置いている。また、危険物の管理にも同様である。	・緊急地震速報システムを設置し、いざという時に備えている。 ・安否確認システムを構築し、万一の際の学生の安否確認の一助としている。 ・サバイバルキットを全学生数分+α備えており、万が一の場合の3日間分の食料、水、防寒への対策を立てている。 ・スタッフ用ヘルメットの十分な数を備えている。 ・第1次避難所を杉並第八小学校、第2次避難所を善福寺川緑地公園としている		
7 学生の募集と受け入れ (奥田)	7-25 学生募集を適切かつ効果的に行っているか	3	学生募集活動は、学則を基に、その年の入学案内、募集要項の通り、適正に行われている。 また、募集活動は学園グループ全体の考え方である「入学前教育」であると同時に「キャリア(意識)形成段階」という点を踏まえ、志望者の状態に合わせたカウンセリングが実施できるように教職員・学生スタッフに対して研修を実施している。受験生にとって職業の正しい理解や医療人としての適性の確認ができるよう、数種類の体験授業や実技特待生講座、授業見学等を実施した。	2019年度学生募集 目標(入学定員)250名に対して実績245名	3.0	・学生募集を適切かつ効果的に行っていると考える ・少子化の渦中において目標250名に対して245名の入学者数の獲得は良いことだと考える
	7-26 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	3	入学選考に関しては、アドミッションポリシー・選考方法を募集要項に明示し、決められた日程に実施している。入学試験後は、学科長以上で構成される、「選考会議」により、学則および募集要項に明記してある基準に基づいて可否を確定している。 面接結果、書類内容の結果を踏まえ、将来医療・歯科医療業界で働くことに適性があるかを総合的に判断している。また、学科ごとの各種データおよび入学者の予測数値等は広報会議や運営会議で随時確認し5年単位の長期計画を毎年作成するとともに、授業改善や事業計画作成に活用している。	将来の希望分野への適性をきちんと見極めるため、面接の比重を大きくしている。結果として、学力のみにとらわれない、モチベーションの高い学生確保に役立っている。		
	7-27 経費内容に対応し、学納金を算定しているか 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	3	収入と支出が適正かをチェックし、その上で学費の見直しを毎年実施するようにしている。また、学納金については東京都専修学校各種学校協会のルールを基準としているため、適正かつ妥当なものである。 入学辞退者に対する対応は、募集要項に返還についての取扱方法を記載し、入学辞退者に対する対応を適正に行っている。			
8 財務 (篠田)	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	3	右記にあるような厳しいチェックならびに評価を行っている。結果として債務超過や資金不足に陥ったりはしていない。よって、中長期的に財務基盤、学校運営は安定している。	以下のチェック機能がある。 事業計画(財務計画・収支予算書) 1. 滋慶学園グループ本部(以下本部)によるチェックと理事会・評議員会による承認 2. 四半期ごとの本部によるチェック 3. 修正予算の作成:本部によるチェックと理事会・評議員会による承認 4. 計算書類の作成と本部によるチェック 5. 監事および公認会計士による監査 6. 計算書類、事業報告書の理事会・評議員会による承認	3.0	・財務体制が正しく機能していると思われる
	8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	3	特に財務数値に関しては、財務専門の部門が右記のようなタイミングで様々な分析・計画等を行い、適切な学校運営ができるような管理を実施している。			
	8-29 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	3	予算編成の方法については教育目標を踏まえた上で短期的と中長期的それぞれの視点に立ち、5年先を見越し、中長期的事業計画を毎年立てその中で収支計画を作成しているが、学校、滋慶学園グループ本部、理事会・評議員会と複数の目でチェックする為、より現実即した予算編成になっている。 また、運営会議の中で予算のチェックも実施している。「予算書＝決算書」(計画の時点で精度の高い予算を立てるといふ考え)という方針の下、執行している。	「当初予算」→「四半期予算・実績対比」→「修正予算」→「決算」という流れの中で、収支計画が実現可能なものとなり、財務基盤の強化につながっている点が特徴として挙げられる。 当初予算の基となる「学生数目標」と「学生数実績」との差異が生じないよう、精度の高い目標(予算)設定がより求められる。		
	8-30 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	3	私立学校法上義務付けられている「監事による監査」を受けている。	補助金対象ではない当学校において「公認会計士による監査」も受けている。		
	8-31 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	3	財務公開体制が整備されている。学園の特徴は、法改正の変化に迅速に対応できる機動力である。今後も、いかなる法改正にも迅速に対応していくことができる組織体制を維持している。	「財務情報公開規程」「情報公開マニュアル」によって、秩序整然たる順序に基づいて情報公開に対処している点が特徴として挙げることができる。		

9 法令等の遵守（保科）	9-32 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	3	監事監査に際して、業務監査の対象としてコンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている。 法令や設置基準の遵守に対する方針は文章化され、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは完了している。 また、教職員への啓蒙として、法令や設置基準の遵守に対する教育または研修は、学校責任者と実務担当者でプログラムを構築し、行っている。	法改正に準じその都度対応している。	3.0	・法令等に基づき適正に実施されていると思われる
	9-33 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	3	個人情報保護の体制は完了している。 外部機関の「TRUSTe」より国際規格の認証を獲得し、毎年個人情報保護管理状況についての検定を受け、ライセンスを更新し、ホームページ上に明記している。	教職員・学生全員がITリテラシー（通信・ネットワーク・セキュリティなど、ITにひも付く要素を理解し、自分の目的に合わせて活用できる能力）講習を毎年受講している。		
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	3	私立専門学校等評価研究機構に加盟しており、その基準をもとに毎年継続して自己点検・自己評価、学校関係者評価委員会を計画的に開催している。			
	9-34-2 自己点検・自己評価結果を公開しているか	3	平成26年度より評価結果を毎年公開している。			
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	3	平成25年度より学校関係者評価委員会を立ち上げ、適切な委員の選定と委員会の開催に取り組んでいる。			
	9-34-4 学校関係者評価結果を公開しているか	3	平成26年度より評価結果を毎年公開している。			
	9-35 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	3	HP等で公開している。公開内容を定期的に精査・更新している。			
10 社会貢献（矢野）	10-36-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3	地域と共に発展していく学校として、地元の行事にも積極的に参加をしている。教職員とともに学生ボランティアも参加し案内・清掃活動等を実施している。 さらに、社会・環境問題に対しても取り組みをすすめている。主にペーパーレス化、節電対策を実施している。	<p><2019年度 実績></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の小学校・保育所等でのブラッシング指導 ・杉並区歯科医師会主催の『よい歯健口フェスティバル』 ・未就学児健康診断での眼科健診 ・高円寺阿波踊り時の地域の方への学校開放 ・高円寺フェスにてブース出店 ・杉並フェスタにてブース出店 <p>・節電に対する各種取り組み[期間延長(5月1日～10月31日)のクールビズ活動、エレベータの使用頻度を抑える2アップ3ダウン運動の推進、教室・職員室の空調機の温度設定(夏季:28度、冬季20度)の徹底、夜間照明の消灯等]</p> <p>今後更に地域行事に積極的に参加をし、地域医療に貢献すると同時に催事にもかかわり地域の信頼をより強固にしていく。</p>	3.0	・地域代表の立場から、本校の地元高円寺の街の行事へのボランティアへの経年参加等々は有り難いものと感得している。地域の学校という認識が地元住民に深まり広がっている
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	3	海外研修に対して積極的に参加を呼びかけている。 また、プリティッシュヒルズ(福島)において1泊2日の英語研修を行っている	<p><2019年度 留学生受入実績></p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生士学科 I 部:2名(中国) <p><2019年度 海外研修></p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生士学科:アメリカ(ハワイ)参加者:14名 ・視能訓練士学科:デンマーク(オーデンセ)参加者:2名 <p><H30年度 国内研修 プリティッシュヒルズ参加者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生士学科:95名 ・視能訓練士学科:27名 		
	10-37 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	3	社会貢献や地域貢献に関しては、杉並区や高円寺の行事を年間で把握し、学内プロジェクトを立ち上げ、教職員・学生の参加が活発化している。	<p><2019年度 地域ボランティア実績></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高円寺阿波踊りボランティア ・高円寺フェスボランティア ・高円寺びっくり大道芸ボランティア ・杉並フェスタ 		